

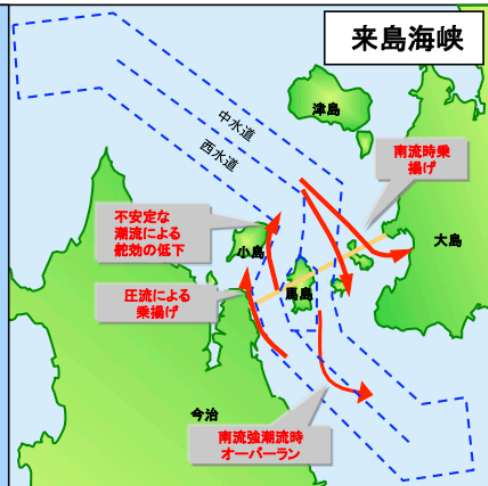
P10. 来島海峡の潮流観測

必要性

海洋情報部 技術・国際課 海洋研究室 熊谷 武

狭水道は航海の難所で海難が多発

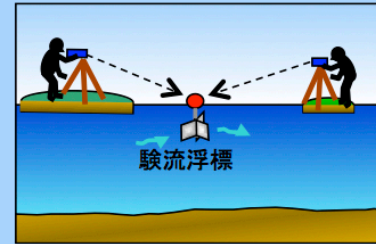
- ・強潮流
- ・可航幅が狭い
- ・屈曲して見通しが悪い
- ・来島海峡は「順中逆西」の航法
- ・潮流が6kn以上で航行船舶への影響がある



これまでに実施した潮流観測

来島海峡の最狭部は流れが強く、大型船の通行量が多いため、流速計設置での観測は不可能。

このため昭和31年、験流浮標の連続追跡を行い浮標位置から、流向・流速を計算し、現在の潮汐表作成



平成22年海上交通安全法等改正
潮流に応じた交通規制実施

↓

潮流の速力を超えて4ノット以上の速力を確保できない船舶への航路外待機指示、転流の前後に個別に航法を指示等するため、正確な潮流情報が必要

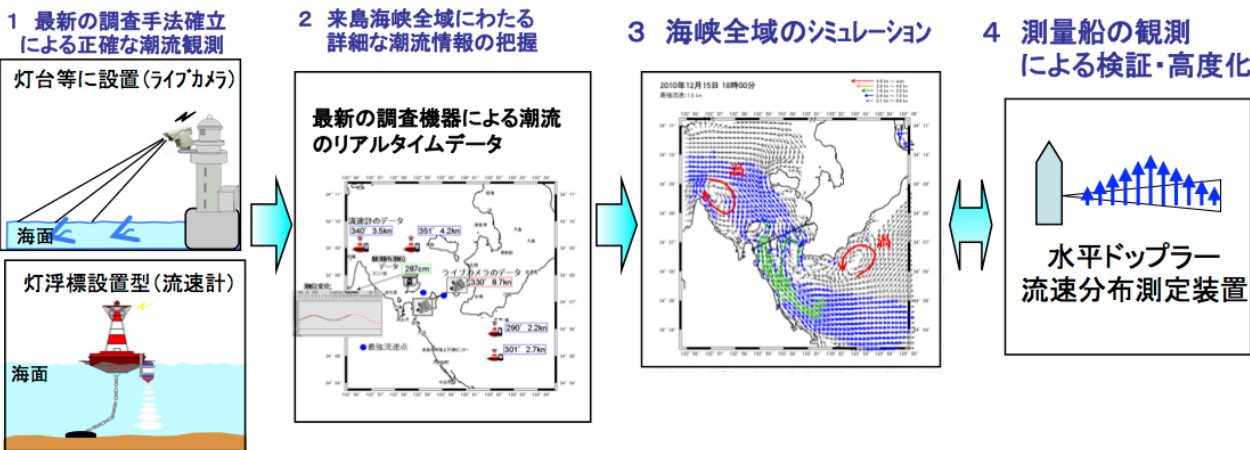
平成23年狭水道等の潮流情報ニーズ調査等結果から

- ・潮汐表、潮流信号所の潮流情報と異なる流れを感じたことがある
- ・渦などの流れにより危険を感じたことがある船舶が多数

↓

- ・狭水道では正確な潮流情報が必要
- ・海域全域にわたる詳細な潮流情報が必要

対策



効果

